

日本微生物資源学会第 20 回大会報告

第 20 回大会大会長 大熊盛也

平成 25 年度の大会は、独立行政法人理化学研究所バイオリソースセンター微生物材料開発室 (JCM) がお世話をさせていただき、平成 25 年 6 月 26 日 (水) から 28 日 (金) の 3 日間、つくば国際会議場で開催いたしました。JCM は平成 24 年夏につくば地区に移転したばかりで土地柄に不慣れではありましたが、近在の関連機関の諸先生にご支援をいただいて、何とか無事に大会を終えることができました。

編集委員会、カルチャーコレクション委員会、理事会のあった初日はあいにくの雨でしたが、実務ワークショップ、口頭発表とポスター発表の一般講演、総会と受賞講演、懇親会を実施した 2 日目、および、シンポジウムを実施した 3 日目には天候にもめぐまれ、多くの方に参加いただけました。参加者の内訳は、正会員 59 名 (機関会員を含む)、賛助会員 8 名、名誉会員 1 名、非会員 29 名 (招待講演者を含む)、学生 8 名の計 105 名となりました。

実務ワークショップは、昨年度の従来の実務担当者会議からの変更を踏襲し、より多くの方に聴いていただくために、一般講演と同じ 2 日目に実施いたしました。実務担当小委員会の提案を受け、「カルチャーコレクションの生物多様性条約 (CBD) への取り組み方」と題して、NBRC の安藤勝彦氏、JCM の伊藤 隆氏、国立遺伝学研究所 鈴木陸昭氏の 3 名に話題提供をいただきました。名古屋議定書の概要と国内外の微生物資源保存機関の対応状況、学術研究への影響などの動向を紹介いただいて問題点を議論いただきました。議定書が 1、2 年のうちに批准される見込みであり、今後の対応を考えるうえでタイムリーな話題でありました。

一般講演は、口頭発表 9 題、ポスター発表 26 題がありました。微生物の分類、分離や保存に関する研究成果に加え、生態や共生、プラスミドやファージについての研究まで、微生物資源に関連した幅広い分野の講演がなされました。15 のポスター発表と口頭発表 1 題は、国際連携や整備対象微生物の紹介を含めた微生物資源保存機関の活動に関する報告・発表でありました。研究成果と事業関連のいずれの講演においても活発な議論がなされ、意見交換や研究交流の場を十分に提供することができたのではないかと考えています。

総会に引き続き、日本微生物資源学会賞の授賞式が実施され、NIAS の佐藤豊三会員に学会賞が授与されました (写真 1)。同時に、千葉大名誉教授の西村和子会員に名誉会員証が授与されました (写真 2)。学会賞の佐藤氏には「微生物園と菌族館」と題した受賞講演をしていただきました (写真 3)。中学生でのかびとの出会いから、研究と



写真 1



写真 2



写真 3

事業における成果，そして将来の夢までをご披露いただきました。受賞おめでとうございます。

昨年度の大会に試行された一般講演に対する表彰を今大会も実施しました。選考委員の投票により，口頭・ポスター両者の一般講演のなかから3つの演題を選考し，懇親会にてそれぞれの講演発表者に優秀発表賞を授賞しました。受賞者と演題は，JCMの遠藤力也氏「森に酵母資源の宝庫を見つける」，地球環境フォーラムの森 史氏「ハプト藻保存株の凍結保存と生存検査向上の取り組み」，東京農大の黒川祐菜氏「*Stenotrophomonas maltophilia* の分類学的研究」です。受賞をお祝いするとともに今後の活躍も期待しております。懇親会には計77名の参加をいただき，大いに親睦を深めていただきました。

ゲノム解析が手軽になり多くの解析ゲノム情報が発信されつつある今，ゲノム情報が研究基盤としての微生物資源の利用や整備にもたらす影響を考察することを目的として，「微生物ゲノムと研究基盤」と題したシンポジウムを大会3日目に開催しました。産総研の玉木秀幸氏に「環境オミックス情報解析時代の未知・未培養微生物の探索と資源化」，産総研の佐藤浩昭氏に「リボソームタンパク質群遺伝子配列を利用したMALDI-TOFMS解析と微生物株の同定」，JCMの高島昌子氏に「担子菌系酵母のゲノム解析と分類学的考察：ドラフトゲノム解析に基づく*Trichosporon* 属および近縁菌株の系統関係」，麻布大の森田英利氏に「*Bifidobacterium* 属細菌の比較ゲノムとプロバイオティクス」，東京医科歯科大の中川一路氏に「病原細菌の比較ゲノム解析によるゲノム多様化機構の解明」と5名の方に講演をいただきました。微生物株のゲノム情報にとどまらず，環境オミックス，プロテオームや比較ゲノムといった解析が，分離から同定，分類，生態，機能，進化にわたるまで，多角的に幅広く利用され，研究基盤としての微生物資源にとってゲノム関連情報の重要性を再認識することになりました。

最後になりますが，開催地のつくばまで足を運んで本大会に参加していただいた皆様と一般講演発表者の皆様，シンポジウム・ワークショップで話題提供をいただいた講演者の先生に厚く御礼申し上げます。次回大会で皆様と再会できることを楽しみにしております。